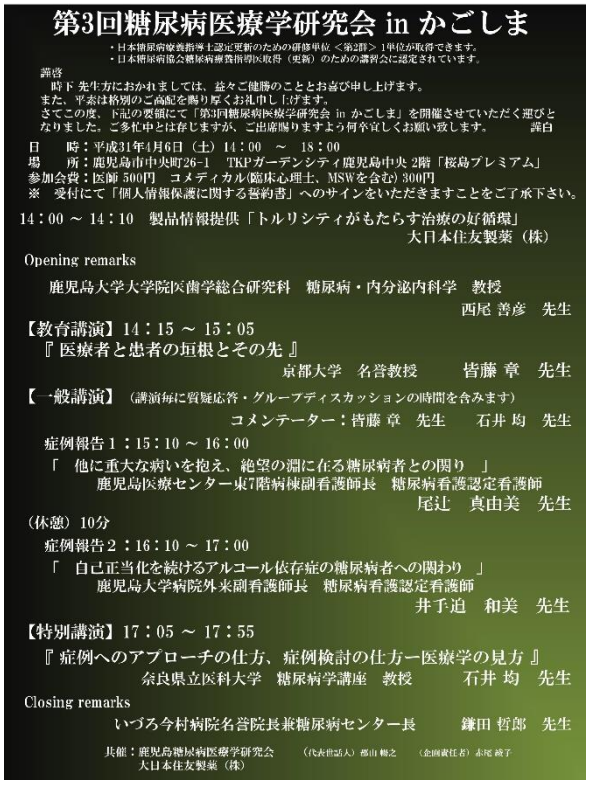
「 第３回糖尿病医療学研究会 in かごしま 」を開催いたしました。

2019（平成 31）年 4 月 6 日に、遥々奈良と京都から、石井　均先生と皆藤　章先生をコメンテーターとしてお招きして、鹿児島糖尿病医療学研究会と大日本住友製薬（株）との共催で**「第３回糖尿病医療学研究会 in かごしま」**を開催いたしました。両先生を含めて、医師 16 名、看護師 38 名、管理栄養士 11 名、理学療法士 2 名、検査技師 2 名、臨床心理士 12 名、その他 2 名の総勢 83 名、県外からは水俣や遠く青森よりご参加をいただき、盛会となりました。


第3回糖尿病医療学研究会 in かごしま

・日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 ＜第2群＞ 1単位が取得できます。
・日本糖尿病協会糖尿病療養指導医取得（更新）のための講習会に認定されています。

謹啓
時下 先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
また、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さてこの度、下記の要領にて「第3回糖尿病医療学研究会 in かごしま」を開催させていただく運びとなりました。ご多忙中とは存じますが、ご出席賜りますよう何卒宜しくお願い致します。　謹白

日　　時：平成31年4月6日（土）14：00　～　18：00
場　　所：鹿児島市中央町26-1　TKPガーデンシティ鹿児島中央 2階「桜島プレミアム」
参加会費：医師 500円　コメディカル(臨床心理士，MSWを含む) 300円
※　受付にて「個人情報保護に関する誓約書」へのサインをいただきますことをご了承下さい。

14：00 ～ 14：10　製品情報提供「トルリシティがもたらす治療の好循環」
大日本住友製薬（株）

Opening remarks
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　糖尿病・内分泌内科学　教授
西尾 善彦　先生

【教育講演】14：15 ～ 15：05
『 医療者と患者の垣根とその先 』
京都大学　名誉教授　　皆藤 章　先生

【一般講演】（講演毎に質疑応答・グループディスカッションの時間を含みます）
コメンテーター：皆藤 章　先生　　石井 均　先生

症例報告１：15：10 ～ 16：00
「　他に重大な病いを抱え、絶望の淵に在る糖尿病者との関り　」
鹿児島医療センター東7階病棟副看護師長　糖尿病看護認定看護師
尾辻　真由美　先生

（休憩）10分

症例報告２：16：10 ～ 17：00
「　自己正当化を続けるアルコール依存症の糖尿病者への関わり　」
鹿児島大学病院外来副看護師長　糖尿病看護認定看護師
井手迫　和美　先生

【特別講演】17：05 ～ 17：55
『 症例へのアプローチの仕方、症例検討の仕方ー医療学の見方 』
奈良県立医科大学　糖尿病学講座　教授　　石井 均　先生

Closing remarks
いづろ今村病院名誉院長兼糖尿病センター長　　鎌田 哲郎　先生

共催：鹿児島糖尿病医療学研究会　（代表世話人）都山 糖之　（企画責任者）赤尾 綾子
大日本住友製薬（株）

Opening remarks として、所用のためご参加いただけなかった鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科西尾善彦教授からいただいた参加者へのメッセージを、同科診療講師の出口尚寿先生に代読していただきました。

「糖尿病診療に携わっていますと、疾病の病態、病理に関する知識や薬物治療の実践だけではどうすることもできない、あるいはうまく対処できない症例を必ず経験します。糖尿病の治療は患者の心理や行動を理解することなしには成功することがないことを、日頃、臨床を経験していると、なんとなく気づいてきます。けれどもその糖尿病治療の人間的側面を学問として研究し、理論化して理解し、実践するという活動はこれまでの糖尿病学や学会ではそれほど重視されてきたわけではありません。そんな中で本日ご講演いただける石井均先生には、この糖尿病治療の人間的側面に焦点を当てた糖尿病医療学という領域を立ち上げ、これまで

引っ張ってきていただきました。（中略）私も遅ればせながら、勉強させていただき、糖尿病診療の向上を目指すものにとって、糖尿病医療学を学び、研究、発展させることは必須だと確信するに至っています。ぜひ、本日ご参加の皆さんにとっても、貴重な学びの会になりますことを祈念いたしております。（後略）」

鹿児島県の糖尿病診療を指導されている教授に、ここまでの心のこもったメッセージを賜り、参加者一同感動致しました。

その後、皆藤先生より教育講演**「医療者と患者の垣根とその先」**、一般講演としての事例報告 2 題**「他に重大な病いを抱え、絶望の淵に在る糖尿病者との関り」**、**「自己正当化を続けるアルコール依存症の糖尿病者への関わり」**と各々のグループディスカッションと発表、コメンテーターお二人のコメント、石井先生の特別講演**「症例へのアプローチの仕方、 症例検討の仕方－医療学の見方」**、慈愛会今村病院名誉院長兼糖尿病センター長の鎌田哲郎先生による Closing remarks と続きました。

例年通り、ミニ糖尿病医療学学会といったイメ

ージ通りの研究会となり、あっという間の4時間が過ぎ去りました。参加者からは、「毎年この会で
CDEとしての学んだ感と満足感をいただいており
ます。ありがとうございました。」、「毎年、よい刺激になって、また勉強しよう、また頑張ろうと思う機会になります。」、「今回も貴重な患者様の語りをお聞かせ頂き有難うございました。スタッフと一緒に参加しましたが、患者様との関わりを見直す良い機会を与えて頂いたと感謝しております。」等の言葉が聞かれました。今回もグループ毎にディスカッションの内容をメモ紙にまとめておいていただき、会の終了後に演者の糖尿病看護認定看護師2名の方々へお届けしました。
「これを読むのも楽しみで、勉強になり、エネルギーをいただける」と感謝が聞かれました。

石井先生と皆藤先生のご講演並びにコメントからは、今年も多くの大きな学びがありました。

『アルコール依存症患者の場合、その成育歴や近親の関係性に問題を有することが有り、そのような場合には、専門家によって育て直すように関る必要がある。また突然死のリスクを抱えているために、専門家へ繋ぐための、**時に覚悟をもった賭けに医療者が出なければならないときがある。**それを可能にする関係性の構築をしておくことが重要である。』

『人が命の時を告げられた時、我々医療者は**生きる希望を教えることは出来ない**。しかし、希望を捨てずに共に歩もうとする姿勢を崩さずに耐えていると、時を得て、“人が苦海に生を受けている”ことを受容して新たな世界を見ることが可能となり、生きる。そして、その生きるプロセスに意味が生まれる。我々医療者は、**命の時を告げられた人を前にしても、成長する時間を提供することが出来る**。』　お二人のご講演を、毎年鹿児島の地で聴くことが出来る我々は、幸福であるとつくづく思いました。

研究会後の懇親会の場には、お二人を含めた
“単なる酔っ払い”
が多数出現、総勢23名での楽しい宴の時を過ごすことが出来ました。

毎年、参加者が集まるかが不安で堪らず、「落ち着きがない！」とスタッフに注意を受けますが、今年も無事に終えることが出来ました。石井先生、皆藤先生、西尾先生、鎌田先生、そして鹿児島の仲間達（医療者）のお陰様と感謝しつつ、同時に、医療学の重要性の理解が少しずつ広がり、既にしっかりと脈動しているのだと実感致しました。今後は、多くの若い医師に参加していただくこと、更に多くの医療者に参加していただけるよう工夫をしていくことが課題です。このことが、将来もこの会が引き継がれれていくことに繋がるものと考えています。

最後に、改めまして、今回の「第3回糖尿病医療学研究会 in かごしま」におきましての、石井先生と皆藤先生のご尽力に深く感謝申し上げます。

鹿児島糖尿病医療学研究会代表世話人
（独）国立病院機構鹿児島医療センター糖尿病・内分泌内科部長　郡山　暢之